

関連項目：指導体制プラン①

ゲーム化して行動への意欲化を図る

目的

本校は、1学年120名を超える児童が在籍する大規模校であり、児童同士の横や縦のつながりが薄い。また、やや都会的であり地域とのつながりも同様に薄い。そのことがあってか、朝大きな声で挨拶する児童が少ない傾向にあった。週的生活目標にあげても、児童の行動を変えていく意欲にあまりつながっていない様相であった。そこで、週目標と共にそれをしていく意欲がわくよう、ゲーム化することによって、行動傾向を変化させていこうとした。

内容

● 実践のきっかけ

今年度、「志度小12の基本習慣」を設定し、良習慣の形成を図った。その中の一つの項目に挨拶があるが、声が小さくて一部の決まった人にしか挨拶ができない傾向にあった。そのことに問題意識を持っていた担任が、自学級である6年生の国語の「私の意見を書こう」の学習の中で、挨拶のできる学校にするために、どんな工夫をしたらよいか考えさせた際、ある児童から「挨拶を、ビンゴゲームのようにゲーム化して、みんなで取り組んだらどうか」という意見が出てきた。

● 挨拶ビンゴの作成と実践

挨拶をゲーム化して取り組むために「挨拶ビンゴ用紙」(下図)を作成して自学級で取り組んでみた。それを生徒指導委員会に提案して、共通理解を得た。しかし、そこで提案した挨拶ビンゴ用紙は6年生用であり、低学年や中学年には難しいという意見が出た。そこで、高学年用のものを修正して低学年用と中学年用の挨拶ビンゴ用紙を作成した。作成した挨拶ビンゴ用紙をもとに、挨拶ビンゴを週的生活目標として設定して、全校生で取り組んだ。

● 地域との連携

校区会議を開催した折には、集団登校時等で挨拶のよくできている児童名を学校に報告してもらい、全校朝会で表彰することで更なる意欲化を図った。また、この会は地域の方々に学校での取り組みを理解していただく機会となった。

● 心と健康ビンゴの実践

ある教職員から「挨拶ビンゴの実践によって、挨拶はよくできるようになったが、それに偏ってしまっているのでは」という指摘があった。そこで、他の生活習慣を加味した「心と健康のやくそくビンゴ」を新たに作成して、総合的な良習慣形成に取り組んだ。

あいさつビンゴ!
 ()月()日()
 ()年()組 なまえ()

① ちいきの人 ()人					② 校長先生 や教頭先生 ()人					③ 自分の学 級の男子 ()人				
月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
④ ()年の 担任の先生					⑤ ()					⑥ ちがう 学級の人				

成果

こうした取り組みのなかで、児童は声を出して挨拶することへの抵抗が薄れ、地域の方々へも大きな声で挨拶ができるようになってきた。また、学校が「地域の方に挨拶ができる子」を育てようとしていることを知った地域の方々から、積極的に挨拶の声かけをしていただけるようになった。現在は、挨拶ビンゴをきっかけにして、知・徳・体の総合的な良習慣形成を図っている。